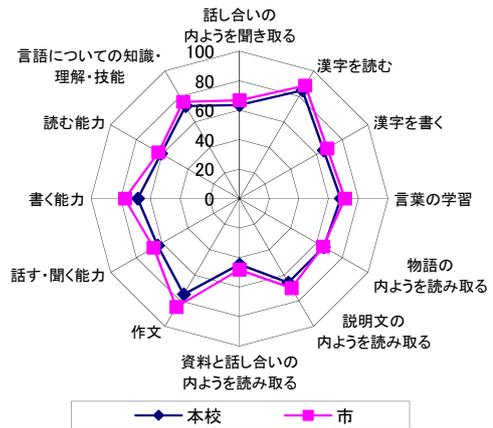


宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	63.5	66.6
	漢字を読む	84.8	88.4
	漢字を書く	65.4	68.2
	言葉の学習	68.1	71.0
	物語の内ようを読み取る	65.6	64.9
	説明文の内ようを読み取る	65.7	70.1
	資料と話し合いの内ようを読み取る	44.6	48.3
	作文	75.0	84.9
観点別	話す・聞く能力	63.5	66.6
	書く能力	68.4	77.1
	読む能力	61.0	63.0
	言語についての知識・理解・技能	72.5	75.8



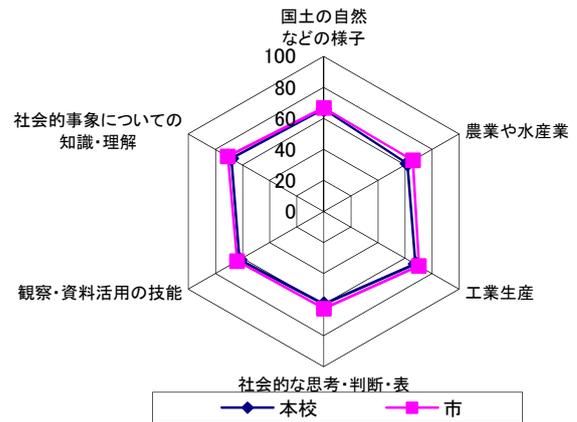
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	・平均正答率は市の平均正答率より、やや低い。「話し手の意図を考えながら、話の内容を聞く」問題は、平均より正答率が高くなっているが、「話し手の工夫を考えながら、話の内容を聞く」問題の正答率は、市の平均より低くなっている。	・話し手を意識して何を伝えようとしているか考えながら聞くことや、聞いたことを短くまとめることを学習に取り入れていくようにする。
漢字	・平均正答率は市の平均正答率より、やや低い。漢字を読むことは比較的できているが、書くことについては、過去に学習した漢字の正答率が低くなっている。	・過去に学習した漢字の復習を繰り返し行うとともに、習った漢字も繰り返し練習を行い、定着するように指導する。
言葉の学習	・全体的な正答率は、市の平均正答率よりやや低くなっている。「ことわざの使い方や句読点の打ち方を理解している」という問題の正答率は、市の平均正答率より上回っているが、「漢字の成り立ちについての理解」や「同音異字の使い分け」の問題の正答率が市の平均正答率より低くなっている。	・漢字の指導を行う際に、成り立ちについても触れる機会を設けるようにする。また、同音異字の使い分けについては、言葉の使い方についての取り出し学習を行うようにする。
物語の内ようを読み取る	・登場人物の心情を読み取る問題では、市の平均正答率と比べ、やや高い。	・物語文の学習では、登場人物の心情を捉えるキーワードを見つけさせたり、物語がどのように展開していくのか確認する活動を取り入れるなどして、内容をしっかり理解できるようにさせていきたい。
説明文の内ようを読み取る	・文章の構成をとらえながら、内容を的確に読み取ることはできているが、段落のまとまりを考えながら読み取る問題の正答率はやや低い。	・各段落の要点をまとめたり、接続語や指示語から段落と段落のつながりを捉えたりする活動を重視し、確実に読み取れるよう指導していく。
資料と話し合いの内ようを読み取る	・「資料」と「話し合い」の2つの文章を読んで答える問題では、市の平均正答率と比べやや低い。	・「話し合い」の文章に「資料」がどのように関わっているのかを考えさせる手立てとして、文章がどのような構成になっているのか、どのような観点で書かれているのかなど基本的な読み取りの方法を指導して、定着を図る。
作文	・作文の意見と感想を区別して書くことは比較的できているが、決められた形式で文章を書くことでの正答率は低い。	・基本的な作文の書き方の形式を確認し、作文を書く機会を増やす。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	国土の自然などの様子	65.9	66.7
	農業や水産業	61.7	65.8
	工業生産	67.7	70.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	59.8	62.7
	観察・資料活用 of 技能	62.3	64.1
	社会的な事象についての知識・理解	68.3	70.9



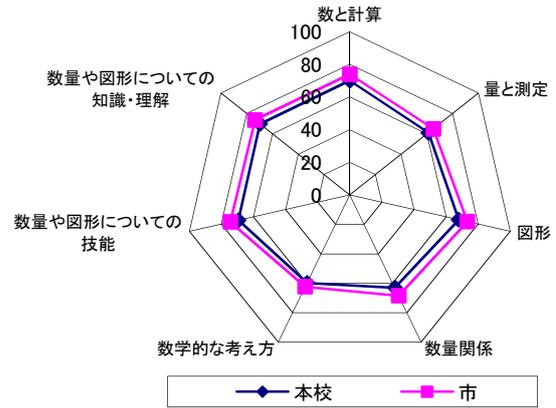
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然などの様子	<ul style="list-style-type: none"> 「世界の中の国土」の問題は、市の平均正答率と比べやや高いが、「日本の国土と人々のくらし」の問題は、市の平均正答率と比べやや低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の細かな地形や位置について、地図帳で確認したり、名称を覚えたりさせる。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> 「日本の農業」に関する問題は、市の平均正答率と比べやや高い。また、調べようとする課題に対して必要な資料を考察し選択することはおおむねできた。日本の食糧が輸入に頼った場合の問題点を読み取って答える問題の正答率は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教科とも関連付けて、グラフの読み取りの定着を図るようにする。また、日本の食糧生産についての問題点を確認したり、日常的に課題意識をもって考える体験を積み重ねる。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> 自動車工場の関連工場についての理解はできている。また、環境に配慮した自動車の目的についてももしっかり理解できている。複数の資料を読み取る問題や資料をもとに学習問題をつくる問題の正答率は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料から読み取れることを自分の言葉で表現する練習を行うようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	70.0	73.9
	量と測定	61.2	65.0
	図形	67.9	73.2
	数量関係	63.0	68.5
観点別	数学的な考え方	59.8	62.4
	数量や図形についての技能	69.4	74.4
	数量や図形についての知識・理解	69.8	73.6



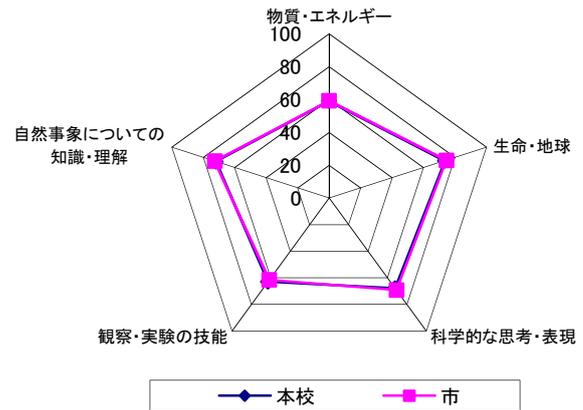
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市の平均正答率より、やや低い。整数のなかま分けに関する問題はよくできている。小数のわり算に関する問題の正答率は、低い状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> 小数のわり算の計算練習を重点的に行い、定着を図る。また、普段の学習において、図や数直線の活用が大切であることを理解させるとともに、授業でも積極的に書く機会を増やすようにする。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市の平均正答率より低い。「立方体の体積」を求める式の理解はおおむねできている。「単位量あたりの大きさ」を求める問題での正答率は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「単位量あたりの大きさ」の問題では、文章問題で書かれている内容を的確に把握し、何を求めるのかを理解させてから、基準となる単位当たりの量で比べることができるようにする。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市の平均正答率より低い。「三角形の内角の和から、角度を求める」問題や「内角の和を求める」問題の正答率が高かった。「立体の展開図から垂直な辺や面を求める」問題の正答率は低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 立体の模型を使いながら辺や面の関係を確認する。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> 「ともなって変わる2つの数量の関係を式に表す」問題と「計算のきまりを小数に応用する」問題での正答率はどちらも低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ともなって変わる量の様々な問題に触れさせ、2つの数量の関係を式に表せるように練習をする。計算のきまりの問題は、基本的な形の復習をし、練習問題に取り組みさせる。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	59.1	59.3
	生命・地球	73.5	74.4
観点別	科学的な思考・表現	67.8	69.2
	観察・実験の技能	62.9	61.6
	自然事象についての知識・理解	71.9	72.7



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>・「水のすがた」の問題は市の平均正答率と比べると高かった。「ものの体積と温度」と「もののあたたまり方」についての問題は、市の平均正答率と比べると低かった。</p>	<p>・温度によってもものの体積がどうなるのか、空気や金属があたためられるとどうなるのかを再確認して、定着を図る。</p>
生命・地球	<p>・「けんぴ鏡の使い方」についての技能や「魚のたんじょう」や「雲と天気の変化」についての知識を問う問題の平均正答率は高い。夕焼けの翌日は晴れが多い理由を科学的に考える問題は、市の平均正答率よりも低い。</p>	<p>・日常生活の中で、「どうだろう」や「なぜ」という疑問をもつ機会を増やしなが、理由を考える機会を増やしていくようにする。</p>